

# 【社会科】

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 見学に行くことが出来ない場合でも、ICT機器の活用により視覚的な学習を行うことで社会科における基礎的な知識の定着をさせることができた。
- 調べたことを新聞等に表現する学習を通して、地域の特色や背景、人々の工夫について考察する力が付いてきた。
- △社会科における問題解決的な学習を定着させることを目指しているがまだ十分ではない。しかし、課題を追究したり、解決したりする活動が、社会参画の意識をもつことにつながり、主体的に学習に取り組む態度は高い。引き続き、よりよい社会を考え、主体的に問題解決をしようという資質・能力を養うことを目指していく。
- △4年「市の様子」や5年「安全なくらし」といった単元によって関心が希薄になっている。

## 2 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	知識・技能については、どの学年も目標値を大きく上回っている。県の様子や国土の自然の様子について昨年度よりも高く、地図やグラフからの確かな内容を選択できていることから、知識・技能が高いことが分かる。しかし、4年生の地域や市の様子については、昨年度よりも下がってしまっているため、写真や地図の情報を正確に読み取らせる必要がある。	思考・判断・表現では、3学年全てで、目標値を上回った。特に5年生安全なくらし(交通事故や事件)や生活環境を守る活動といった幅広い領域で考察する力が高いことが分かった。しかし、6年生が、昨年度よりも全体的に下がっているため、分かりやすい資料から考察させ、自分の考えをもたせる必要がある。	主体的に学習に取り組む態度は、目標値を大きく上回っている。特に6年生は、他の学年よりも高い数値を示しており、主体的に学習に取り組む態度が高いことが分かる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度同様に高い正答率になってはいるが、思考力を問う問題に対して低い数値が見られる。特に6年生は昨年度よりも全体的に下がり学習の定着に個人差が見られる。基礎基本となる知識及び技能を身に付けさせ、それらを活用しながら、思考・判断・表現を中心に高めさせる必要がある。</li> <li>・いくつかの資料から必要な情報の収集や活用方法を具体的に理解する時間を、短時間でも毎時間のように確保する必要がある。(表題・縦軸・横軸・年代・出所など)</li> <li>・体験的な学習やICT機器を使って得た情報を、日常生活や学習場面で繰り返し確認できるように意図的に場面を設定し、各学年で学習すべき基礎的な知識の定着を図る必要がある。</li> </ul>		

## 3 授業の具体的な改善策

教科目標	<p><b>新学習指導要領の教科の目標</b></p> <p>社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり、解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の特色や相互の関係、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことを選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</p> <p>(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</p>
全体	<p><b>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象から学習問題を見だし、その解決への見通しをもって取り組めるように学習計画を立てる。それには、学習対象に関する関心を高めるために児童に提示する資料を精選する。また、問題意識をもつようにさせるとともに、予想したり、学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討すること、学習したことから新たな問題を見いだしたりすること、さらに学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に活かしたりすることができるようにする。</li> <li>・学習過程を通じた様々な場面で児童相互の話し合いや討論などを充実させる。また、実社会で働く人々から話を聞く活動を行うことで、児童が様々な視点を身に付け、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えさせる。</li> </ul>
<b>学年段階別改善策</b>	
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元が終わった後も、地名や国名、重要な語句についてマイブックを作成してまとめるなどの活動を取り入れる(知識・理解)</li> <li>・習った地図記号を実際に地図上に記入し、見やすい地図を作成したり、地図から情報を読み取ったりする活動を設定する。(思考・判断・表現)</li> <li>・見学等体験的な活動を多く取り入れ、区や都の様子に関心をもち、意欲的に調べられるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習で得た知識を確実に定着させるために、授業の最後に用語やキーワードを使って、ワードブック等にまとめる活動を行う。(知識・技能)</li> <li>・様々な資料を関連付けて読み取る学習を意図的に行う。資料の題名から大事な情報を正しく、それらを合わせてどんなことが分かるのか、どのように表現すればよいのかを考えさせる学習を行う。(思考・判断・表現)</li> <li>・資料やICT機器(動画)を取り入れて、工場の生産の工程、人々の協力関係、技術向上などについて着目させて、調べられるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)</li> </ul>